

国際医療福祉大学・医学部

試験日 2021年1月20日 時間80分 **数学I** **数学II** **数学III** **数学A** **数学B** (数列, ベクトル)

1 (1) 方程式 $|2x+3|=5$ の実数解は, $x = \square$ である.

方程式 $|x+2|+|x-3|=7$ の実数解は, $x = \square$ である.

(2) a を実数の定数とし, x の2次方程式

$$x^2 - 2ax + 2a^2 - a - 6 = 0 \dots\dots\dots (*)$$

について考える.

(*)が異なる2つの実数解をもつとき, a のとり得る値の範囲は, $\square < a < \square$ である.

(*)が異なる2つの正の解をもつとき, a のとり得る値の範囲は, $\square < a < \square$ である.

(3) $(x+3)^{10}$ の展開式における x^8 の係数は \square である.

$\left(x - \frac{2}{x}\right)^{12}$ の展開式における x^{10} の係数は \square である.

(4) xy 平面上に, 点 $A(3, 6)$ と, 放物線 $C: y = x^2 + 4x - 3$ がある. C 上の点 P の x 座標を t (t は実数) とし, 線分 AP を $1:2$ に内分する点 Q の座標を (X, Y) とすると,

$$X = \frac{t + \square}{\square}, Y = \frac{t^2 + \square t + \square}{\square}$$

である. よって, 点 P が C 上を動くときの Q の軌跡の方程式は,

$$y = \square x^2 - \square x + \square$$

である.

2 表と裏が同じ確率で出る1枚のコインがある. このコインを投げる試行を繰り返し行う. 4回連続して表が出たら, 試行を終了する.

(1) コインをちょうど4回投げて試行を終了する確率は $\frac{\square}{\square}$ である.

コインをちょうど5回投げて試行を終了する確率は $\frac{\square}{\square}$ である.

コインをちょうど6回投げて試行を終了する確率は $\frac{\square}{\square}$ である.

(2) コインをちょうど8回投げて試行を終了する確率は $\frac{\square}{\square}$ である.

コインをちょうど8回投げて試行を終了したとき, 表が出た回数がちょうど5回である条件付き確率は $\frac{\square}{\square}$ である.

(3) コインをちょうど9回投げて試行を終了する確率は $\frac{\square}{\square}$ である.

コインを10回以上投げる確率は $\frac{\square}{\square}$ である.

3 台形 $OABC$ において, $OA = 5, AB = 9, OC = 4, OC \parallel AB$ とする. $\vec{OA} = \vec{a}, \vec{OC} = \vec{c}$ とする.

(1) $\cos \angle AOC = -\frac{1}{4}$ とする.

(i) $\vec{a} \cdot \vec{c} = \square$ である.

(ii) 三角形 OAC の面積は $\frac{\square \sqrt{\square}}{\square}$ である。

(iii) $\vec{OB} = \vec{a} + \frac{\square}{\square} \vec{c}$ であるから、 $\vec{OB} \cdot \vec{OC} = \square$ である。

(2) (i) $\vec{a} \cdot \vec{c} = -4$ のとき、辺 BC の長さは $\square \sqrt{\square}$ である。

(ii) 辺 BC を 1 : 4 に内分する点を P、線分 AP と線分 OB の交点を Q とする。 $\frac{AQ}{QP} = \frac{\square}{\square}$ 、 $\frac{OQ}{QB} = \frac{\square}{\square}$

であるから、三角形 OPQ の面積は、三角形 ABQ の面積の $\frac{\square}{\square}$ 倍である。

4 関数 $f(x) = 4\sin^4 x - 2\sin^2 x + 1$ がある。

(1) $0 < x < \pi$ とする。 $f(x)$ は、 $x = \frac{\pi}{\square}$ で極大値 \square 、 $x = \frac{\pi}{\square}$ 、 $\frac{\square}{\square}\pi$ で極小値 $\frac{\square}{\square}$ をとる。

(2) $f(x)$ の不定積分を求めると、 $\int f(x) dx = \frac{1}{\square} \sin 4x - \frac{1}{\square} \sin 2x + \frac{\square}{\square} x + C$ (C は積分定数) である。

(3) 曲線 $y = f(x)$ 、 x 軸および、2直線 $x = t - \frac{\pi}{8}$ 、 $x = t + \frac{\pi}{8}$ (t は実数の定数) によって囲まれた図形の面積を $S(t)$ とする。

$$S(t) = \frac{1}{\square} \cos 4t - \frac{\sqrt{\square}}{\square} \cos 2t + \frac{\square}{\square} \pi$$

である。 t が $0 \leq t \leq \pi$ の範囲を動くとする。 $S(t)$ は $t = \frac{\pi}{\square}$ 、 $\frac{\square}{\square}\pi$ のとき、最小値 $\frac{\square}{\square} + \frac{\square}{\square}\pi$ をとる。

1 (1) **【数学Ⅰ】【1次方程式】標準**

▶解答◀ (i) $|2x + 3| = 5$

$$2x + 3 = \pm 5 \quad \therefore x = -4, 1$$

(ii) $|x + 2| + |x - 3| = 7$ ①

(ア) $x \geq 3$ のとき、

$$x + 2 + x - 3 = 7$$

$$2x = 8 \quad \therefore x = 4$$

これは $x \geq 3$ を満たす。

(イ) $-2 \leq x \leq 3$ のとき、

①の左辺は $x + 2 - (x - 3) = 5$ であるから ①を満たす x は存在しない。

(ウ) $x \leq -2$ のとき、

$$-(x + 2) - (x - 3) = 7 \quad \therefore x = -3$$

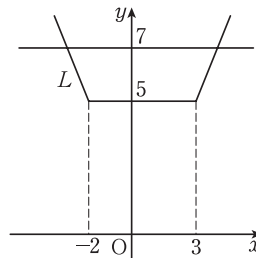
これは $x \leq -2$ を満たす。

(ア), (イ), (ウ) より $x = 4, -3$

【注意】 $y = |x + 2| + |x - 3|$ ②

とする。 $x = -2$ のとき $y = 5$ 、 $x = 3$ のとき $y = 5$ だから ②のグラフは図の折れ線 L になる。したがっ

て方程式①の解は $x < -2$ の範囲と $x > 3$ の範囲にそれぞれ1つずつあることが分かる。



(2) **【数学Ⅱ】【解と係数の関係】標準**

▶解答◀ 方程式 $x^2 - 2ax + 2a^2 - a - 6 = 0$ の判別式を D とする。

$$\frac{D}{4} = a^2 - (2a^2 - a - 6)$$

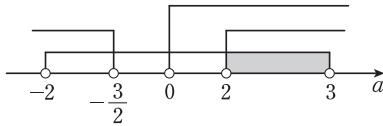
$$= -(a^2 - a - 6) = -(a - 3)(a + 2) > 0$$

$$-2 < a < 3 \quad \text{.....①}$$

方程式の解を $x = \alpha, \beta$ とおく。①のもとで、 $\alpha > 0$ かつ $\beta > 0$ になる条件は $\alpha + \beta > 0$ かつ $\alpha\beta > 0$ である。解と係数の関係より $2a > 0$ かつ $2a^2 - a - 6 > 0$ とな

る。 $a > 0$ かつ $(2a+3)(a-2) > 0$ となり、 $a > 0$ のとき $2a+3 > 0$ であるから $a > 2$ となる。①と合わせて $2 < a < 3$

不等式がいくつかあるときには、部分部分を組み合わせ、少しずつ整理した方がよい。皆まとめて図示するのが好きな人のために図示しておく。



(3) **数学II**【二項定理】 **基本**

▶解答◀ (i) ${}_{10}C_8 \cdot 1^8 \cdot 3^2 = 405$

(ii) 展開式の一般項は

$${}_{12}C_k x^k \left(-\frac{2}{x}\right)^{12-k} = {}_{12}C_k (-2)^{12-k} x^{2k-12}$$

であるから、 $2k-12=10$ のとき $k=11$ である。 x^{10} の係数は

$${}_{12}C_{11} \cdot (-2)^1 = -24$$

(4) **数学II**【軌跡】 **標準**

▶解答◀ $P(t, t^2+4t-3), A(3, 6)$

$$X = \frac{t+6}{3} \dots\dots\dots ①$$

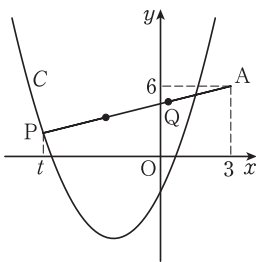
$$Y = \frac{t^2+4t-3+12}{3} = \frac{t^2+4t+9}{3} \dots\dots\dots ②$$

①より $t=3X-6$ で、これを $Y = \frac{1}{3}\{(t+2)^2+5\}$ に代入して

$$Y = \frac{1}{3}\{(3X-4)^2+5\}$$

X, Y を小文字に変更して

$$y = 3x^2 - 8x + 7$$



2 **数学A**【独立試行・反復試行の確率】 **標準**

▶解答◀ 設問が連続して書いてあると解答原稿が書きにくい。各空欄を(i)等の小設問として答えていく。表が出ることを○、裏が出ることを×、どちら

らが出てよいことを△で表すことにする。

(1) (i) ○○○○となる確率だから $\left(\frac{1}{2}\right)^4 = \frac{1}{16}$

(ii) ×○○○○となる確率だから $\frac{1}{2} \cdot \left(\frac{1}{2}\right)^4 = \frac{1}{32}$

(iii) △×○○○○となる確率だから

$$\frac{1}{2} \cdot \left(\frac{1}{2}\right)^4 = \frac{1}{32}$$

(2) (i) 8回目に試行が終わるのは

△△△×○○○○

となるときだから、求める確率は $\frac{1}{2} \cdot \left(\frac{1}{2}\right)^4 = \frac{1}{32}$

(ii) 8回目に試行が終わったとする。最後の5回は×○○○○である。時間を遡ってみると最初の3回で○が1つ、×が2つ出ている確率は $\frac{3}{8}$ である。

(3) (i) 9回目に試行が終わるのは

□□□□×○○○○

のうちで、□□□□が○○○○以外の列のときである。求める確率は

$$\left\{1 - \left(\frac{1}{2}\right)^4\right\} \cdot \frac{1}{2} \cdot \left(\frac{1}{2}\right)^4 = \frac{15}{512}$$

(ii) 「10回以上試行する」の余事象は「試行が9回以下で終わる」である。

4回 ○○○○ $\dots \frac{1}{16}$

5回 ×○○○○ $\dots \frac{1}{32}$

6回 △×○○○○ $\dots \frac{1}{32}$

7回 △△×○○○○ $\dots \frac{1}{2} \cdot \left(\frac{1}{2}\right)^4 = \frac{1}{32}$

8回 △△△×○○○○ $\dots \frac{1}{32}$

9回 □□□□×○○○○ $\dots \frac{15}{512}$

求める確率は

$$1 - \left(\frac{1}{16} + \frac{1}{32} + \frac{1}{32} + \frac{1}{32} + \frac{1}{32} + \frac{15}{512}\right) = \frac{401}{512}$$

◆別解◆ (2) (ii) 事象Aを「8回目で試行が終わる」、事象Bを「5回表が出る」こととする。(2)(i)より $P(A) = \frac{1}{32}$ である。 $A \cap B$ は

○×××○○○○

×○××○○○○

××○×○○○○

の3通りあるから

$$P(A \cap B) = \frac{3}{2^8} = \frac{3}{256}$$

求める条件付き確率は

$$P_A(B) = \frac{P(A \cap B)}{P(A)} = \frac{\frac{3}{256}}{\frac{1}{32}} = \frac{3}{8}$$

3 **【数学B】**【ベクトルと図形(平面)】 **標準**

▶ **解答** ◀ (1) (i)

$$\vec{a} \cdot \vec{c} = 5 \cdot 4 \left(-\frac{1}{4}\right) = -5$$

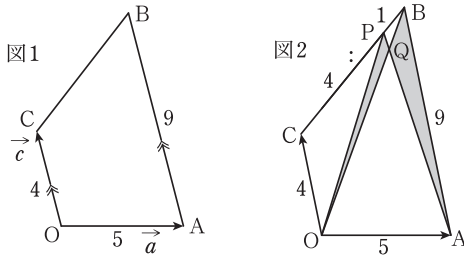
(ii) $\sin \angle AOC = \sqrt{1 - \left(-\frac{1}{4}\right)^2} = \frac{\sqrt{15}}{4}$

$$\triangle OAC = \frac{1}{2} \cdot 5 \cdot 4 \cdot \frac{\sqrt{15}}{4} = \frac{5\sqrt{15}}{2}$$

(iii) $\vec{OB} = \vec{OA} + \vec{AB} = \vec{a} + \frac{9}{4}\vec{c}$

$$\vec{OB} \cdot \vec{OC} = \left(\vec{a} + \frac{9}{4}\vec{c}\right) \cdot \vec{c}$$

$$= \vec{a} \cdot \vec{c} + \frac{9}{4} |\vec{c}|^2 = -5 + 36 = 31$$



(2) (i) $\vec{BC} = \vec{OC} - \vec{OB}$

$$= \vec{c} - \vec{a} - \frac{9}{4}\vec{c} = -\vec{a} - \frac{5}{4}\vec{c}$$

$$|\vec{BC}|^2 = \left|-\vec{a} - \frac{5}{4}\vec{c}\right|^2$$

$$= |\vec{a}|^2 + \frac{25}{16} |\vec{c}|^2 + \frac{5}{2} \vec{a} \cdot \vec{c}$$

$$= 25 + 25 - 10 = 40$$

$$BC = 2\sqrt{10}$$

(ii) $OQ : QB = t : (1-t)$ とおくと

$$\vec{OQ} = t\vec{OB} = t\vec{a} + \frac{9}{4}t\vec{c} \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

$$\vec{OP} = \vec{OC} + \vec{CP} = \vec{OC} + \frac{4}{5}\vec{CB}$$

$$= \vec{c} + \frac{4}{5} \left(\vec{a} + \frac{5}{4}\vec{c}\right) = \frac{4}{5}\vec{a} + 2\vec{c}$$

AQ : QP = s : (1-s) とおくと

$$\vec{OQ} = s\vec{OP} + (1-s)\vec{OA}$$

$$= s \left(\frac{4}{5}\vec{a} + 2\vec{c}\right) + (1-s)\vec{a}$$

$$= \left(1 - \frac{1}{5}s\right)\vec{a} + 2s\vec{c} \dots\dots\dots \textcircled{2}$$

① と ② を係数比較して

$$t = 1 - \frac{1}{5}s \dots\dots\dots \textcircled{3}$$

$$\frac{9}{4}t = 2s \dots\dots\dots \textcircled{4}$$

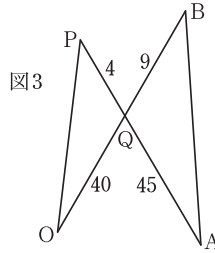
③ × 10 + ④ より

$$\frac{49}{4}t = 10 \quad \therefore t = \frac{40}{49}$$

④ に代入して

$$\frac{90}{49} = 2s \quad \therefore s = \frac{45}{49}$$

$$\frac{AQ}{QP} = \frac{45}{4}, \quad \frac{OQ}{QB} = \frac{40}{9}$$



$$\triangle OPQ : \triangle ABQ = 4 \cdot 40 : 9 \cdot 45 = 32 : 81$$

$$\triangle OPQ = \frac{32}{81} \triangle ABQ$$

4 **【数学III】**【微積分の融合】 **標準**

▶ **解答** ◀ (1) $s = \sin x, c = \cos x$ とお

く.

$$f(x) = 4s^4 - 2s^2 + 1$$

$$f'(x) = 16s^3c - 4sc = 4sc(4s^2 - 1)$$

$$= 4sc(2s - 1)(2s + 1)$$

$f'(x) = 0$ のとき

$$\sin x = 0, \pm \frac{1}{2}, \cos x = 0$$

$0 < x < \pi$ の区間において

$$x = \frac{\pi}{6}, \frac{5}{6}\pi, \frac{\pi}{2}$$

x	0	...	$\frac{\pi}{6}$...	$\frac{\pi}{2}$...	$\frac{5}{6}\pi$...	π
$f'(x)$			-	0	+	0	-	0	+
$f(x)$			↘		↗		↘		↗

$x = \frac{\pi}{2}$ のとき極大値 $f\left(\frac{\pi}{2}\right) = 4 - 2 + 1 = 3$ をとる.

$$f\left(\frac{\pi}{6}\right) = 4 \cdot \left(\frac{1}{2}\right)^4 - 2 \cdot \left(\frac{1}{2}\right)^2 + 1 = \frac{3}{4}$$

$$f\left(\frac{5}{6}\pi\right) = 4 \cdot \left(\frac{1}{2}\right)^4 - 2 \cdot \left(\frac{1}{2}\right)^2 + 1 = \frac{3}{4}$$

であるから $x = \frac{\pi}{6}, \frac{5}{6}\pi$ のとき極小値 $\frac{3}{4}$ をとる.

(2) $f(x) = 4\sin^4 x - 2\sin^2 x + 1$

$$= 4\left(\frac{1 - \cos 2x}{2}\right)^2 - 2 \cdot \frac{1 - \cos 2x}{2} + 1$$

$$= 1 - 2\cos 2x + \cos^2 2x - 1 + \cos 2x + 1$$

$$= \cos^2 2x - \cos 2x + 1$$

$$= \frac{1 + \cos 4x}{2} - \cos 2x + 1$$

$$= \frac{1}{2} \cos 4x - \cos 2x + \frac{3}{2}$$

$$\int f(x) dx = \frac{1}{8} \sin 4x - \frac{1}{2} \sin 2x + \frac{3}{2} x + C$$

(3) $f(x) = 4\left(s^2 - \frac{1}{4}\right)^2 + \frac{3}{4} > 0$ であるから求める面積は

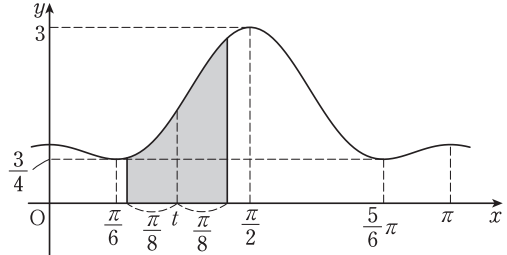
$$\begin{aligned}
 S(t) &= \int_{t-\frac{\pi}{8}}^{t+\frac{\pi}{8}} f(x) dx \\
 &= \left[\frac{1}{8} \sin 4x - \frac{1}{2} \sin 2x + \frac{3}{2} x \right]_{t-\frac{\pi}{8}}^{t+\frac{\pi}{8}} \\
 &= \frac{1}{8} \left(\sin \left(4t + \frac{\pi}{2} \right) - \sin \left(4t - \frac{\pi}{2} \right) \right) \\
 &\quad - \frac{1}{2} \left(\sin \left(2t + \frac{\pi}{4} \right) - \sin \left(2t - \frac{\pi}{4} \right) \right) \\
 &\quad + \frac{3}{2} \cdot \frac{\pi}{4} \\
 &= \frac{1}{8} (\cos 4t + \cos 4t) - \frac{1}{2} \cdot 2 \cos 2t \sin \frac{\pi}{4} + \frac{3\pi}{8} \\
 &= \frac{1}{4} \cos 4t - \frac{\sqrt{2}}{2} \cos 2t + \frac{3}{8} \pi \\
 &= \frac{1}{4} (2 \cos^2 2t - 1) - \frac{\sqrt{2}}{2} \cos 2t + \frac{3}{8} \pi \\
 &= \frac{1}{2} \cos^2 2t - \frac{\sqrt{2}}{2} \cos 2t + \frac{3}{8} \pi - \frac{1}{4} \\
 &= \frac{1}{2} \left(\cos 2t - \frac{\sqrt{2}}{2} \right)^2 + \frac{3}{8} \pi - \frac{1}{2}
 \end{aligned}$$

$\cos 2t = \frac{\sqrt{2}}{2}$ のとき, $0 < t < \pi$ において

$$2t = \frac{\pi}{4}, \frac{7\pi}{4} \quad \therefore t = \frac{\pi}{8}, \frac{7\pi}{8}$$

よって $S(t)$ は $t = \frac{\pi}{8}, \frac{7\pi}{8}$ のとき最小値 $-\frac{1}{2} + \frac{3}{8}\pi$ をとる.

なお, $S(t)$ は図の網目部分の面積である.



要の分析 数 I から数 III まで偏りなく出題されている。医学部の入試問題としてはかなり易しいレベルである。

(茅嶋, 石田颯, 安田亨)